

# スイミングスクール 水着を忘れた男の子は裸で泳ぎなさい！

夏の陽光が眩しい午後、近所のスイミングスクールでは子供たちの歓声が響いていた。男女合わせて10人ほどのクラスでは、元気な子供たちが水着姿でプールサイドに集まっている。しかし、その中に一人だけ、浮かない顔をしている少年がいた。優斗君だ。彼は水着を忘れてしまい、仕方なく普段着のTシャツと短パン姿でプールサイドにやってきたのだ。

「あれ、優斗君、水着はどうしたの？」

亜美ちゃんが不思議そうに尋ねた。

亜美ちゃんは可愛い子で、水着姿が映える。

「忘れちゃったんだ...」

優斗君は恥ずかしそうに答えた。

（まただ。最近忘れ物が多いな...）

優斗君は自分のうっかりミスにうんざりしていた。

その時、クラスを担当する女性コーチ、美咲先生がやってきた。

美咲先生は、スタイル抜群で、子供たちに人気のコーチだ。

「みんな、準備はいいかしら？ 今日新しい泳ぎを練習するわよ！」

明るい声で話す美咲先生だが、優斗君の姿を見ると、表情が陰しくなった。

「優斗君、あなたは服を着たままプールサイドにいるの？ 水着はどうしたの？」

「...忘れました。」

優斗君は再び俯いた。

（また美咲先生に怒られる...）

優斗君はドキドキしていた。

「水着を忘れるなんて、ありえないわ！ みんなの前で恥ずかしいと思わないの？」

美咲先生は厳しく叱責した。

「それに、水着を着ないでプールに入るなんて、衛生上も問題があるわ。裸で泳ぎなさい！」

美咲先生は冷たい声で言い放った。

（えっ？ 裸で？ そんな...）

優斗君は驚いて顔を上げた。

「えっ...？」

「裸で...？ そんな...」

「何を迷っているの？ 早く脱ぎなさい！」

美咲先生は語気を強めた。

優斗君は絶望した。

「でも...」

優斗君は抵抗したが、美咲先生は許さなかった。

「ダメです。裸で泳ぎなさい。」

女の子たちも優斗君の姿に興味津々に見ている。

特に亜美ちゃんは、優斗君の服の下がどうなっているのか、興味津々だった。

（優斗君の、おちんちん... どんな形をしているんだろう？）

亜美ちゃんはドキドキしながら想像していた。

観念した優斗君は、恥ずかしさと不安で胸がドキドキしながら、服を脱ぎ始めた。

（ああ、恥ずかしい...）